

# 黒木西

黒木西小

学校だより

文書:校長 齋藤英義

令和4年5月30日(月)

NO.28



”ほめる”と”承認”



「おつ、〇〇さん、髪切ったんだね。(バレーボールをやっている子どもなので)スカッと爽やかアタッカーカットやね。」  
と声をかけると、  
「私は、セッターです!」との返事。

(一輪車に乗れるようになった子どもにも)  
「おつ、すごい!えらい乗れるようになったやん!」  
何気ない子どもとの会話ですが、できるだけ子どもたちが元気が出るような声かけをしたいと思つて子どもに声をかけています。  
そんな中、”ほめる”ということでおもしろい記事を見つけたので紹介します。

## 1 “ほめる”ではない認め方

ほめることは悪いことではありません。しかし、多用すると「自分がやりたいからやる」ではなく「ほめて欲しいからやる」に、すり替わる恐れがあります。ほめられることは、脳にとっては「ほほうびをもらう」と同じような効果があるからです。  
「ほめる」に似たアプローチに、「承認」というスキルがあります。相手に評価を加えない認める方法です。評価しないことで、何が違ってくるのでしょうか。

## 2 存在を認める・存在承認

承認には2つの種類があります。  
存在承認と行動承認です。  
まずは、存在承認についてお話しします。  
存在承認とは、「子ども自身の存在を認めること」です。  
そう書くのと、難しいことのようにですが普段していることばかりです。  
〇名前を呼ぶ  
〇あいさつをする  
〇頭をなでる(スキンシップ)など  
「あなたの存在を気にしていますよ」というサインです。  
自分に関心を持っていて、と感じるだけで、子どもたちの心持ちが違ってきます。



## 3 事実をそのまま伝える・行動承認

次に、行動承認についてお話しします。  
行動承認とは  
「子どもの行動面に目を向け、変化、成長、成果などの気づきを伝えること」です。  
評価を加えず、事実をそのまま伝えます。  
★見たままを伝える  
「髪型を変えたね(承認)」  
「すてきな髪形になったね(ほめる)」  
※ 髪型を気に入っているとは限りません。



「毎日、運動場を走っているね(承認)」  
「毎日運動場を走っていて、えらいね(ほめる)」  
※ はたして、その子はほめてもらいたくて走っていたのでしょうか。事実を伝えるだけでも、十分に気持ち伝わりやすいです。



★ 違いを伝える  
「さっきは3回しか跳べなかったけれど、今度は7回も跳べたね!」(承認)  
「わり、すごい!上手になったね」(ほめる)  
※ どちらが、より自分の成長を感じられるでしょうか。  
「集合が前より早くできたね。」(承認)

〇組より集合が早くできたね。えらい!」(ほめる)  
※ 他と比較して評価すると、何が行動の動機や基準になっていくでしょうか。

★ 結果ではなく、プロセスを重視する  
「結果は3位だったけれど、一致団結して練習に取り組んでいたね」(承認)  
※ 結果だけ誉められたり、叱られたりするのと、感じ方はどう違うでしょうか。



★ 気持ち伝える  
「ゴミを拾ってくれて、ありがとう。教室がきれいになって気持ちがいいね」(承認)  
「いい子だね!えらいなあ」(ほめる)  
※ 今後ゴミを拾うとき、内発的な動機につながるのとはどちらでしょうか。



## 4 承認のよさ

承認には「ほめる」にはないよさがあります。まず、「承認」はありのままを伝えるのでバリエーションが豊富です。見たまま、感じたままを言えばいいのですから。  
反対に「ほめる」のボキャブラリーは少ないです。  
「すごい!」「えらい!」「いい子!」「上手!」...  
あまりありませんよね。  
また、ほめることは悪いことではありませんが、承認と比較したとき次のような点で異なっています。  
〇 何をほめられているのかよくわからない。  
〇 評価されることで、上から目線を感じる。  
〇 おだてられたように感じる場合がある。(コントロールを感じる)  
〇 行動の動機が「ほめられたい」につながりやすい。



通信ははじめの子どもとの会話...  
「ほめる」の価値もわかっているつもりですが、「承認」の言葉かけにますます磨きをかけなければと、あらためて感じております。



